

L05b 月の異常現象 (A Lunar Transient Phenomenon on Nov. 18, 1996)

柳澤正久、岡本昭彦、吉田尚史 (電通大)

月の異常現象とは、月の一部で、1秒から場合によっては何時間もの間、発光や色の変化が観測されるもので、500年以上も前から報告があり、これまでの報告件数は1000件を越える。一時は月に活火山があるのではないかと騒がれたこともあった。しかし、証拠となる写真などがほとんどなく、一般人による信頼性の低い報告も多いことから、その存在すら疑う者が多い。我々は、日本時間1996年11月18日、19時02分、電気通信大学・菅平宇宙電波観測所から、 $D = 200 \text{ mm}$ 、 $f = 800 \text{ mm}$ の望遠鏡に取り付けたCCDビデオカメラで、ガッセンディ・クレーター付近での点状の発光を捉えた。発光時間は約0.3秒であった。一地点からの観測なので、地球大気中の現象である可能性などを否定はできないが、ガッセンディ・クレーターでは異常現象がよく報告されることから本物の現象である可能性が高い。